

日本における草原生植物リストの作成 ～草原生態系の健全性の指標となる基礎資料の整備～

自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

橋本佳延



現在の日本には、ススキやチガヤ、シバなどのイネ科草本が優占する草原が国土の1%程度しか残っていません。また、これら草原の大半は火入れや刈り取り、放牧といった人の営みによって維持される生態系ですが、近年はこのような営みが少なくなったため、草原内で特定の種が過密に生育するようになったり、森林へと遷移したりしています。

そして草原生態系の量が減り、質もかつてとは異なるものへと変化した結果、草原生態系本来の生物多様性が失われていることが指摘されています。

このような状況を正確に捉えるためには、草原生態系を特徴づける種（草原生植物）の組成や多寡を指標とすることが有効と考えられていますが、草原生植物の定義は調査者・研究者によって様々であり統一的な見解がありません。また図鑑や地方植物誌、レッドリ

スト・レッドデータブックなどで生育環境の記述はありますが、草原生植物のみをリスト化し、その全容を明らかにした資料がありません。

そこで本研究では「何をもって草原生と見なすか？」を定義するとともに、島嶼部を除く西日本に分布する植物から、草原生植物をピックアップし一覧表を作成する調査を行っています。草原生の判定は、これまで出版されている植物図鑑やレッドデータブック、地方植物誌に加え、草原調査の経験が豊富な研究者・調査者の意見元に行っています。4230種を対象に調査した結果、約830種が草原生植物として判定されました。

今後はリストを公開して、より多くの研究者・調査者の検証を仰ぐとともに、このリストを活用した草原生態系の健全性の診断が行えるような保全生態学的研究をすすめた

